

「歩くまち・京都」市民アンケート結果(概要版)

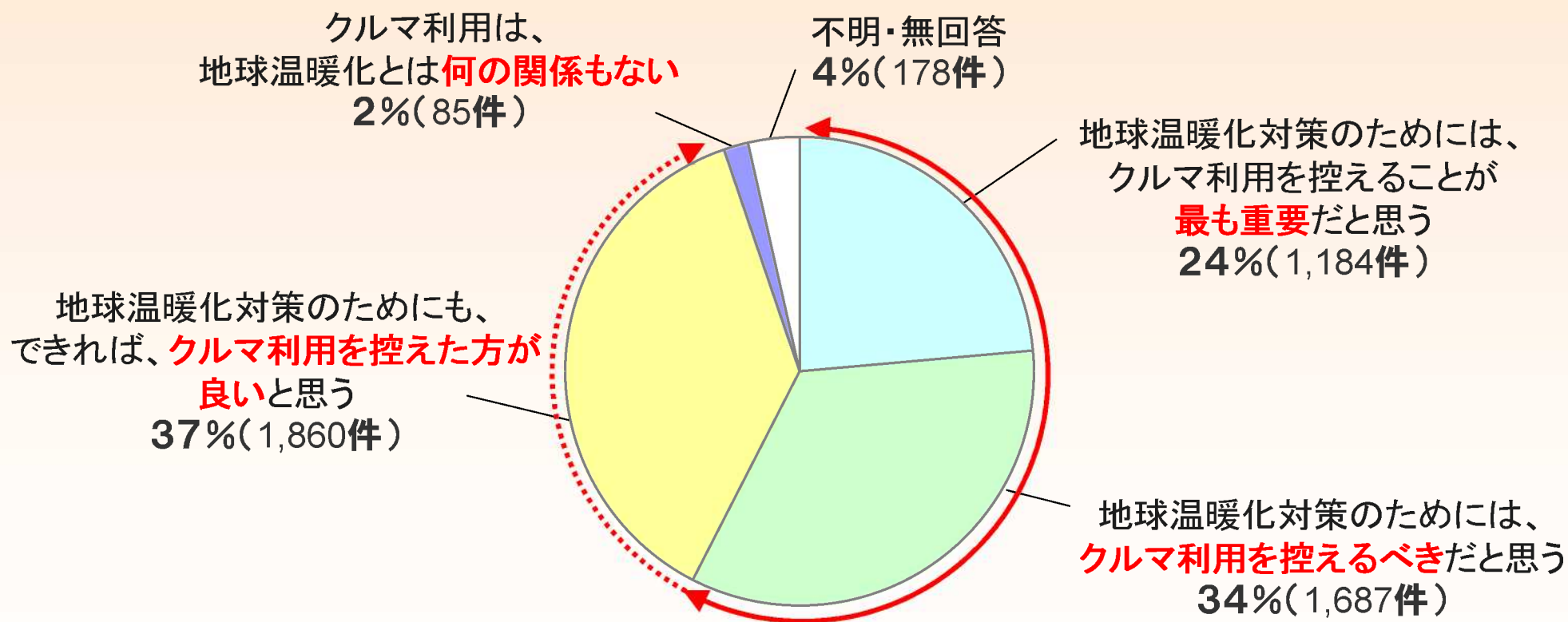
第1回「歩くまち・京都」市民アンケート調査概要

<実施概要>

- 調査対象：18歳以上の市民14,700人
(住民基本台帳及び外国人登録データから無作為抽出)
- 調査方法：回答用紙への記入方式（郵送）
- 調査期間：平成20年11月13日（木）
～平成20年11月30日（日）
- 回収状況：回収数 5,038件（回収率34.3%）
- 第2回アンケート発送数：2,543件

「環境」のためにクルマ利用を控えることが効果的か？

**58～95%の市民が温暖化対策のためには、
クルマ利用を控えることが効果的と回答**

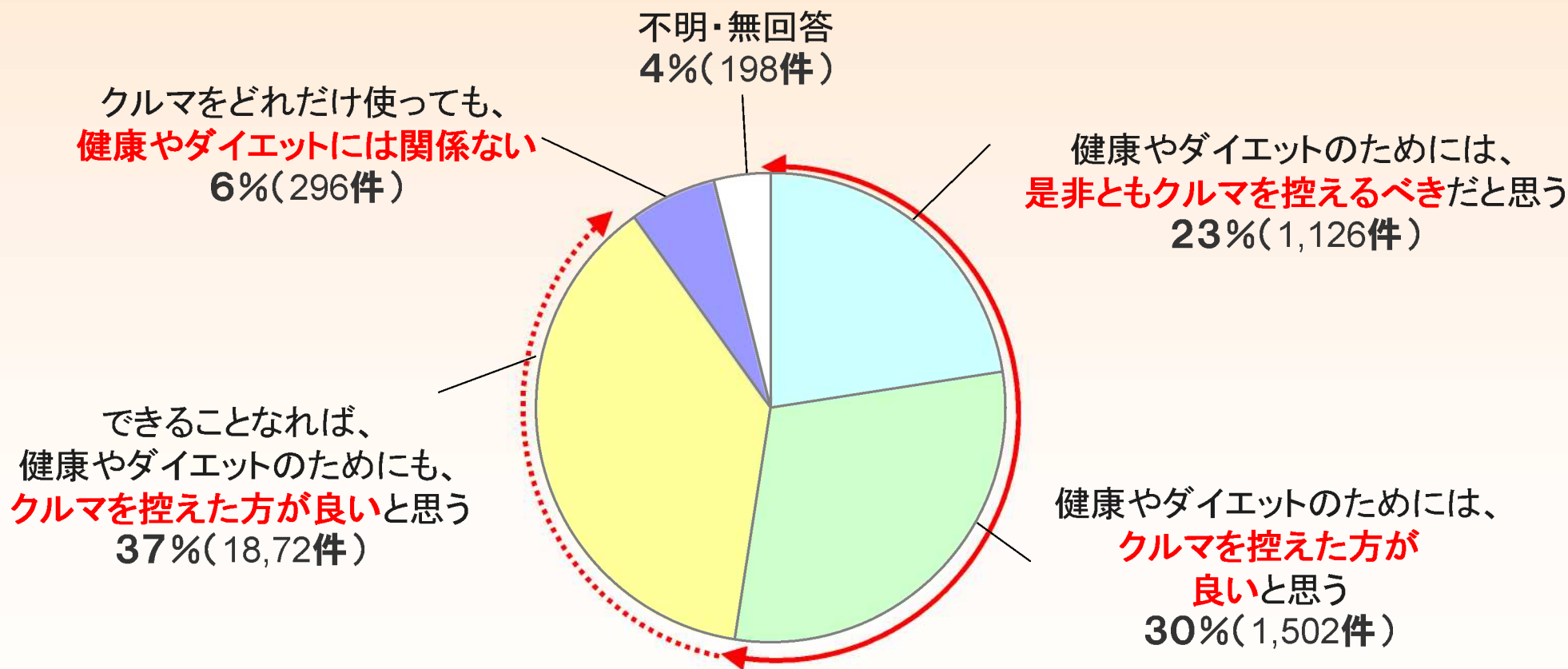


総回答数:4,994件

※百分比の合計は端数処理の関係で100%にならない

「健康・ダイエット」のためにクルマ利用を控えるべきか？

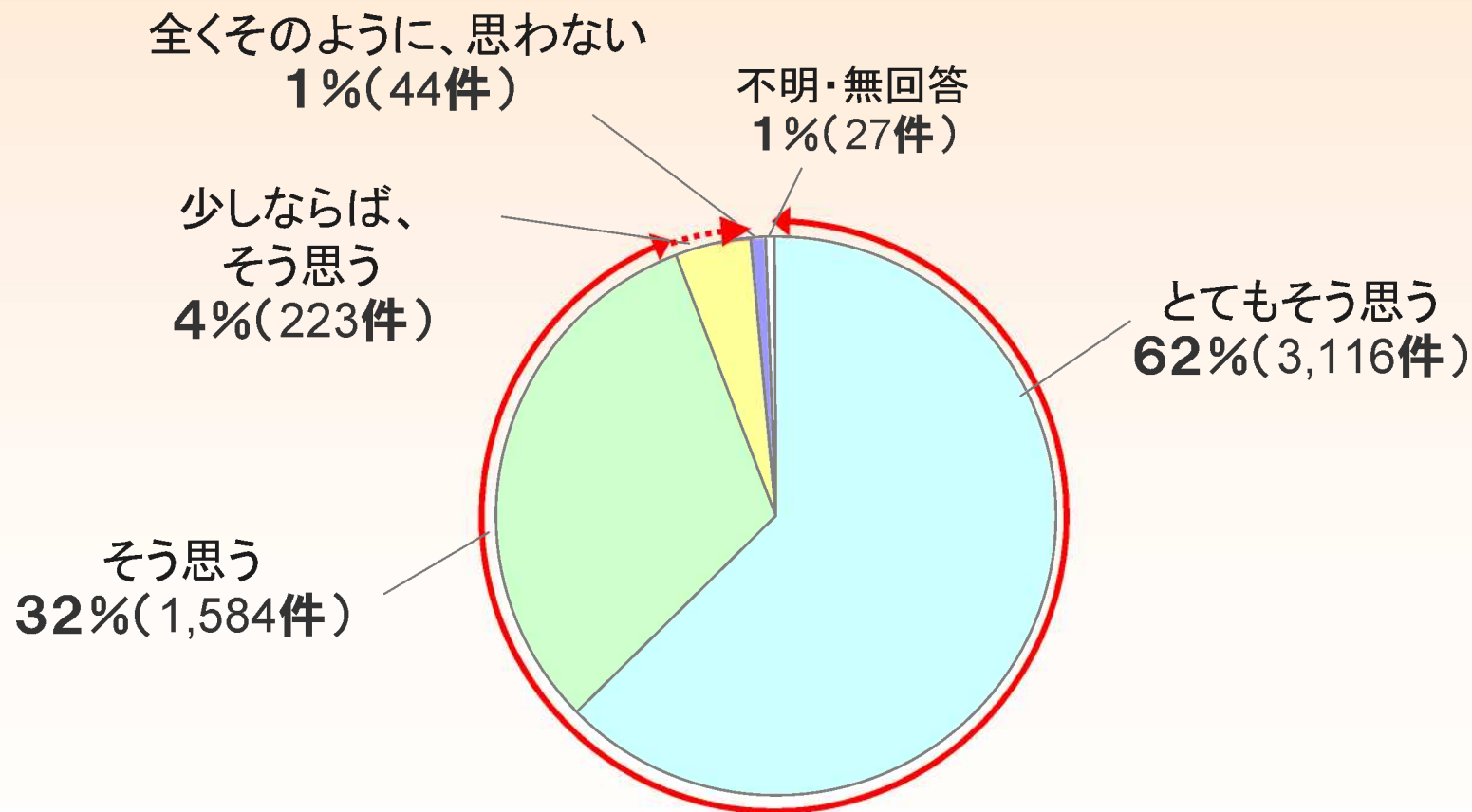
53～90%の市民が健康やダイエットのために、クルマ利用を控えた方が良いと回答



総回答数:4,994件

「歴史と伝統のある、まち」を維持していくべきか？

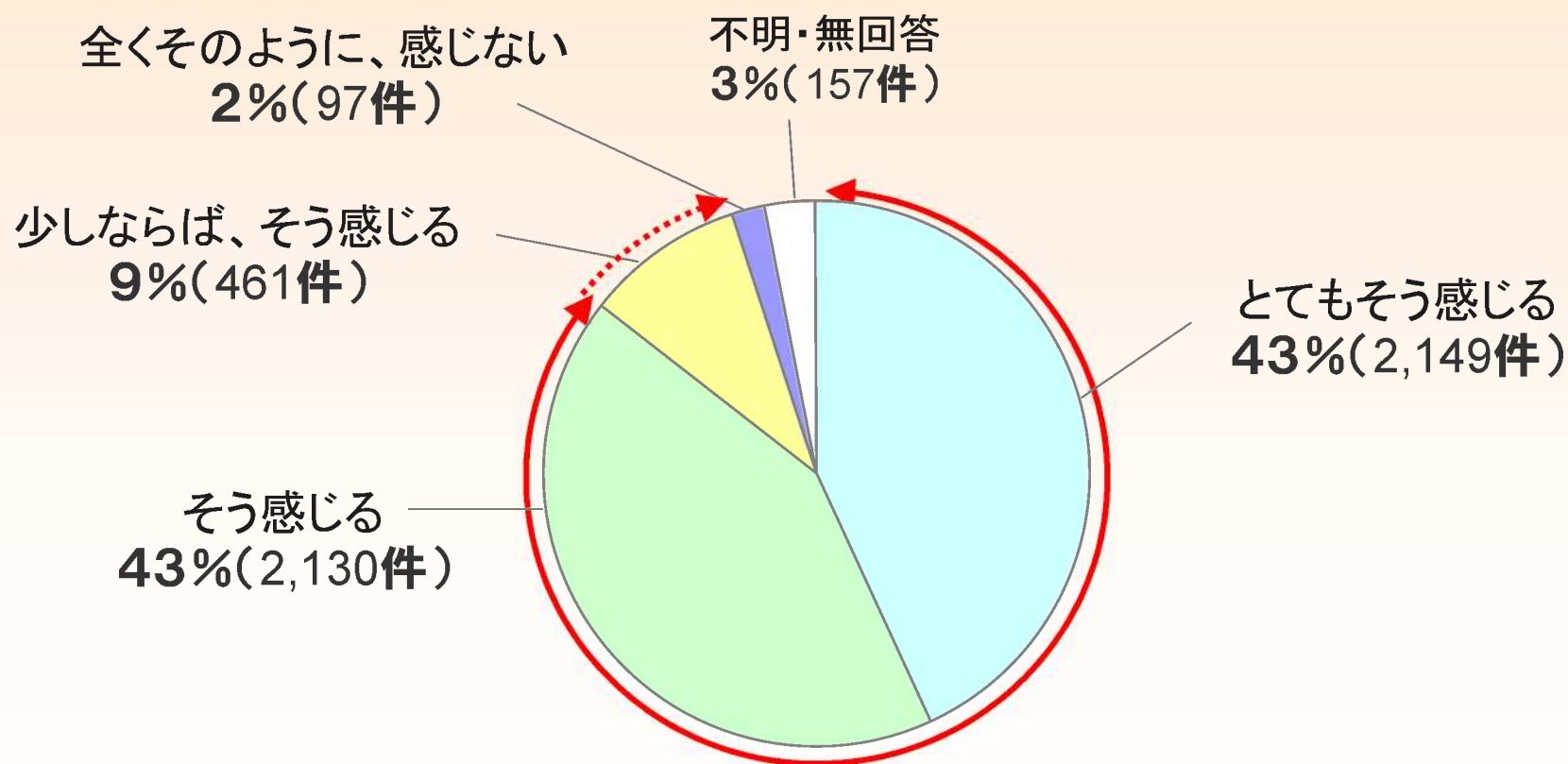
94～98%の市民が京都は、「歴史と伝統のある、まち」を維持していくべきと回答



総回答数: 4,994件

伝統的な風景には「クルマ利用」よりも「歩く人々」の方が馴染むか？

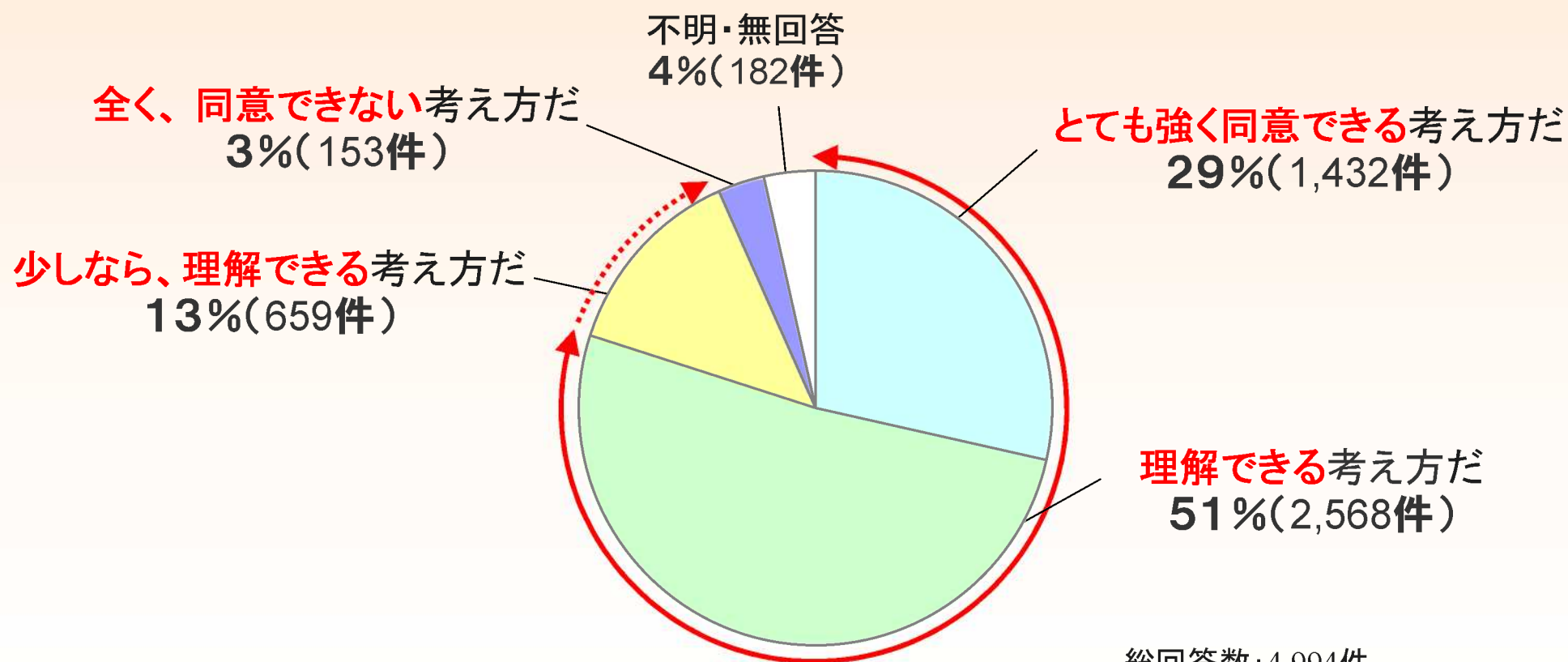
**86%～95%の市民が京都の伝統的な風景には、
「走るクルマ」よりも、「歩く人々」の方が馴染むと回答**



総回答数: 4,994件

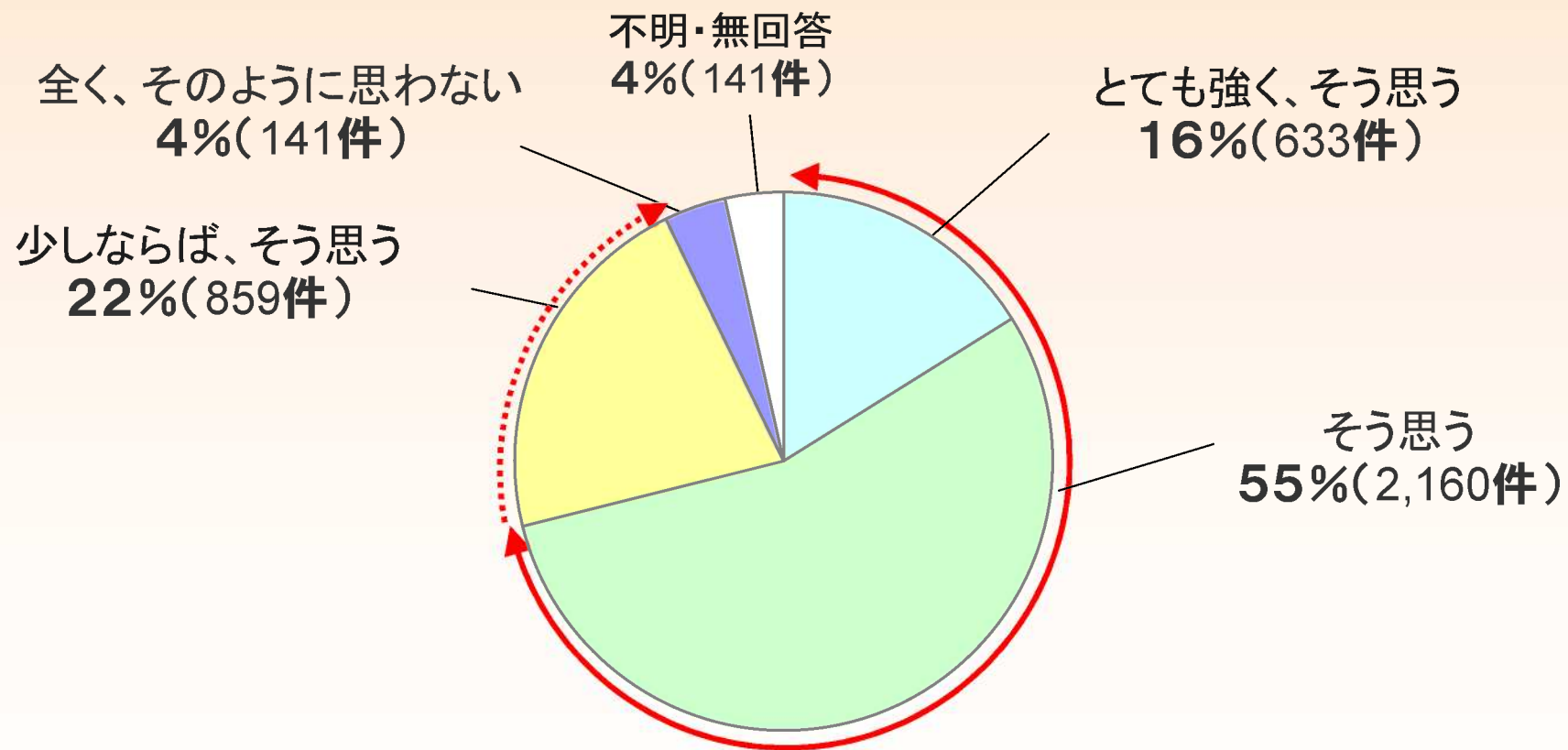
公共交通・徒歩・自転車を大切にしたまちづくりは大切か？

80%～93%の市民が「クルマ中心のまちづくり」よりは、
「公共交通や徒歩・自転車を大切にしたまちづくり」を
進めることが**大切**と回答



自身の「クルマ利用」をできるだけ控えた方が良いと思うか？

クルマ利用者の**71～93%**が自分自身の
「クルマ利用」をできるだけ控えた方が良いと回答



有効回答数: 3,934件※

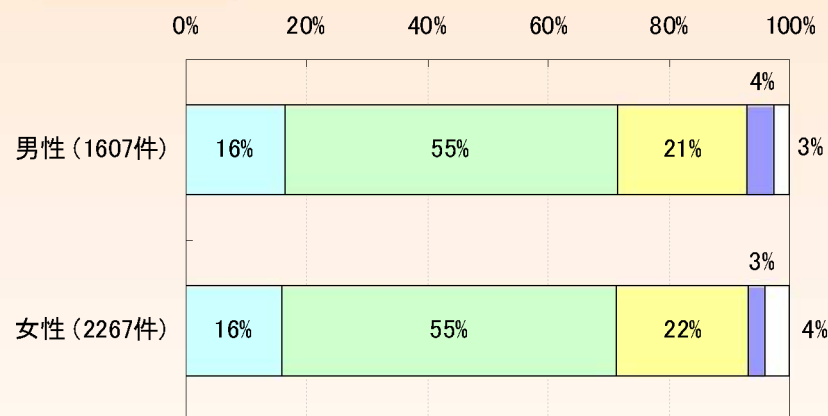
※「クルマを全く利用していない」の1,060件を除く

※百分比の合計は端数処理の関係で100%にならない

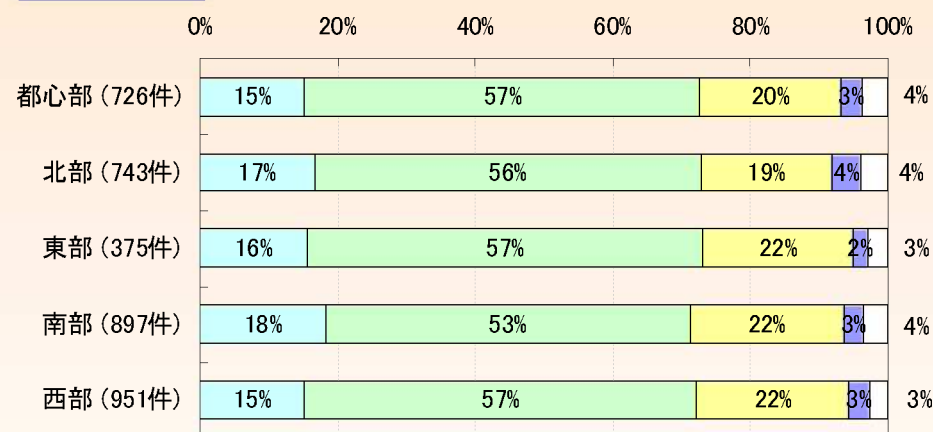
自身の「クルマ利用」をできるだけ控えた方が良いと思うか？

性別、年齢、居住地に関わらずクルマ利用者の大半が
「クルマ利用」をできるだけ控えた方が良いと回答

性別



居住地別



年齢別

- とても強く、そう思う
- そう思う
- 少しならば、そう思う
- 全くそのように思わない
- 不明・無回答



※百分比の合計は 端数処理 の関係で100%にならない

以上の結果を解釈すると...

京都市民は、

「京都の歴史と伝統を守るべき！」

と非常に強く考えており^(94~98%)、そして、

「京都の歴史と伝統のためには^(そして健康や環境のためにも)、

(便利な)クルマをあきらめていかなければならない」

と考えているようである。だからこそ、大多数の市民^(80~93%)が

「クルマ中心でない^(徒歩を中心とした)まちづくりが必要」

と考えており、そして、同じく大多数の市民^(71~93%)が

「自分自身でも、クルマを控えていこう」

と積極的に考えている様子が分かる。

第2回「歩くまち・京都」市民アンケート

<調査概要>

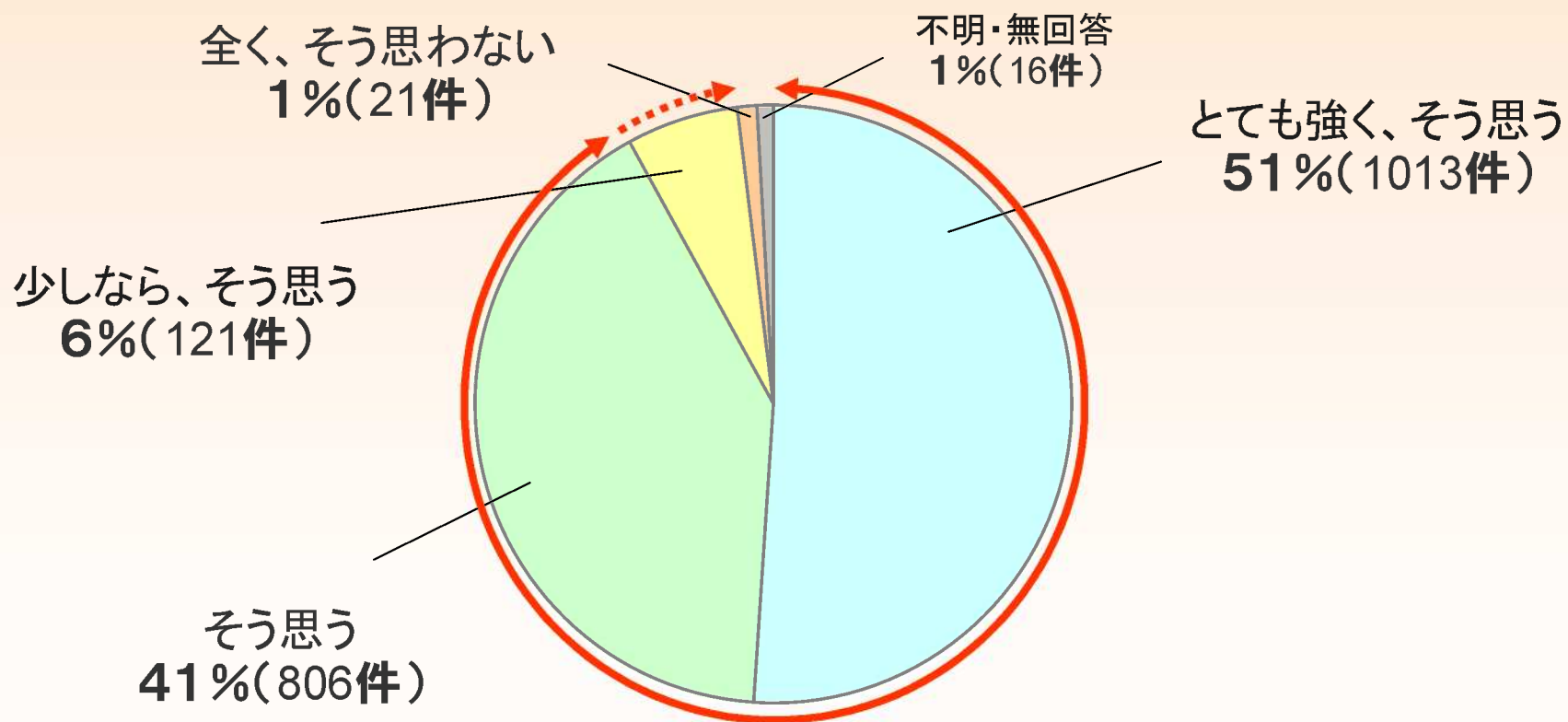
- 平成20年12月11日(木)～平成20年12月26(金)
- 第1回調査協力者及び第2回新規発送(約500人を無作為抽出)
 - 第1回調査協力者：回収数 1,799件(回収率 70.7%)
 - 第2回新規発送者：回収数 185件(回収率 37.0%)

<主な調査項目>

- 日常の外出行動
 - 平日・休日の交通手段別外出回数
- 都心への来訪頻度、手段
- クルマ利用に対する意識・行動の変化
- 「歩くまち・京都」の実現に向けた望ましいライフスタイル

「まちなか」にのびのびと歩ける空間や 気軽に休むことができる空間が必要か (第2回調査協力者)

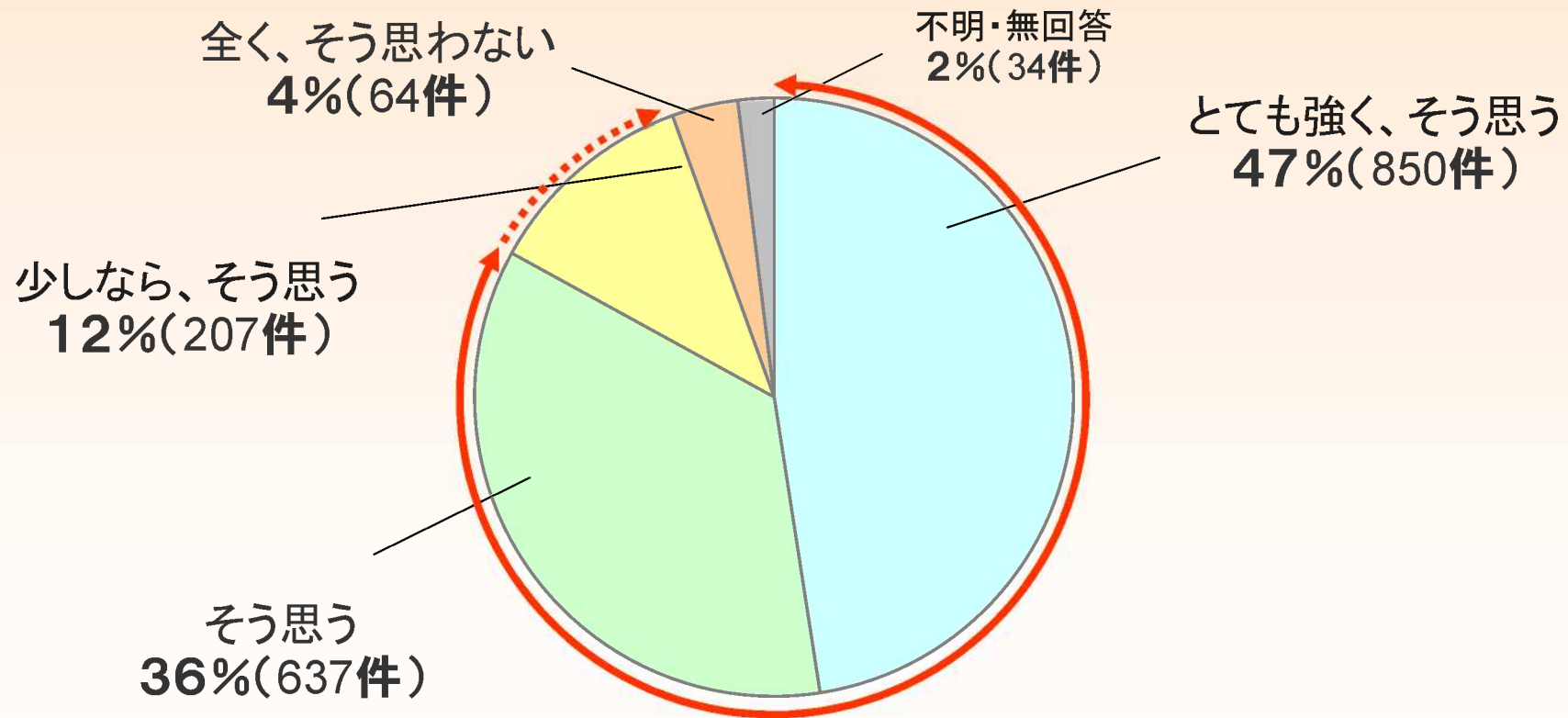
**92%~98%の市民が誰もが歩いて楽しむために
「まちなか」ののびのびとした空間が必要と回答**



総回答数:1,977件

バスや地下鉄を何回乗り換えても料金が変わらなくなれば、 バスや地下鉄を今よりも利用するか (第2回調査協力者)

**83%~95%の市民が乗換無料なら公共交通を
今よりも利用すると思うと回答**



総回答数: 1,792件

※百分比の合計は 端数処理 の関係で100%にならない

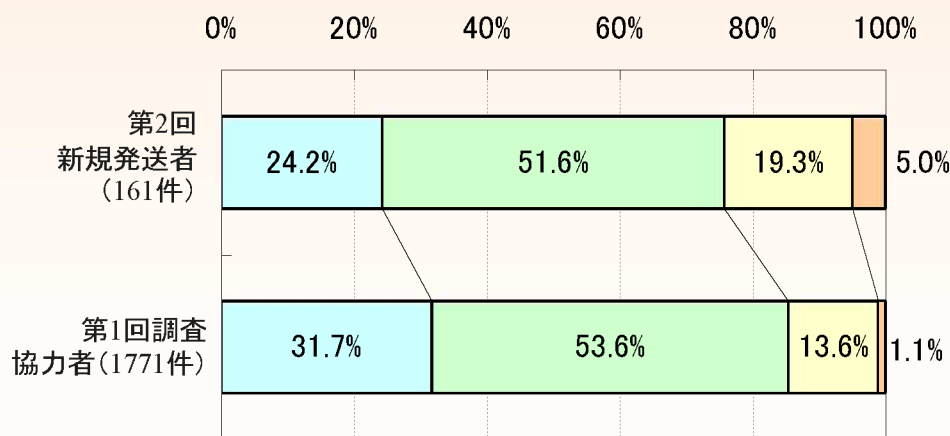
クルマ利用に対する意識

アンケートを通じてコミュニケーションを図った市民は
より積極的にクルマ利用を控えようと考えている

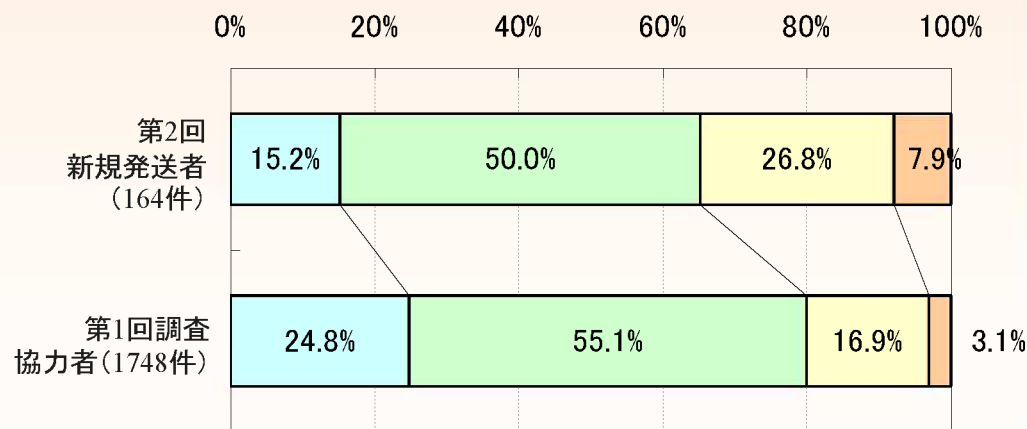
人々が「クルマ利用」を見直すことは
大切だと思うか

自身の「クルマ利用」を
できるだけ控えた方が良いと思うか

□とても強く、そう思う □そう思う □少しなら、そう思う □全く、そう思わない



※不明・無回答を除く



※不明・無回答を除く

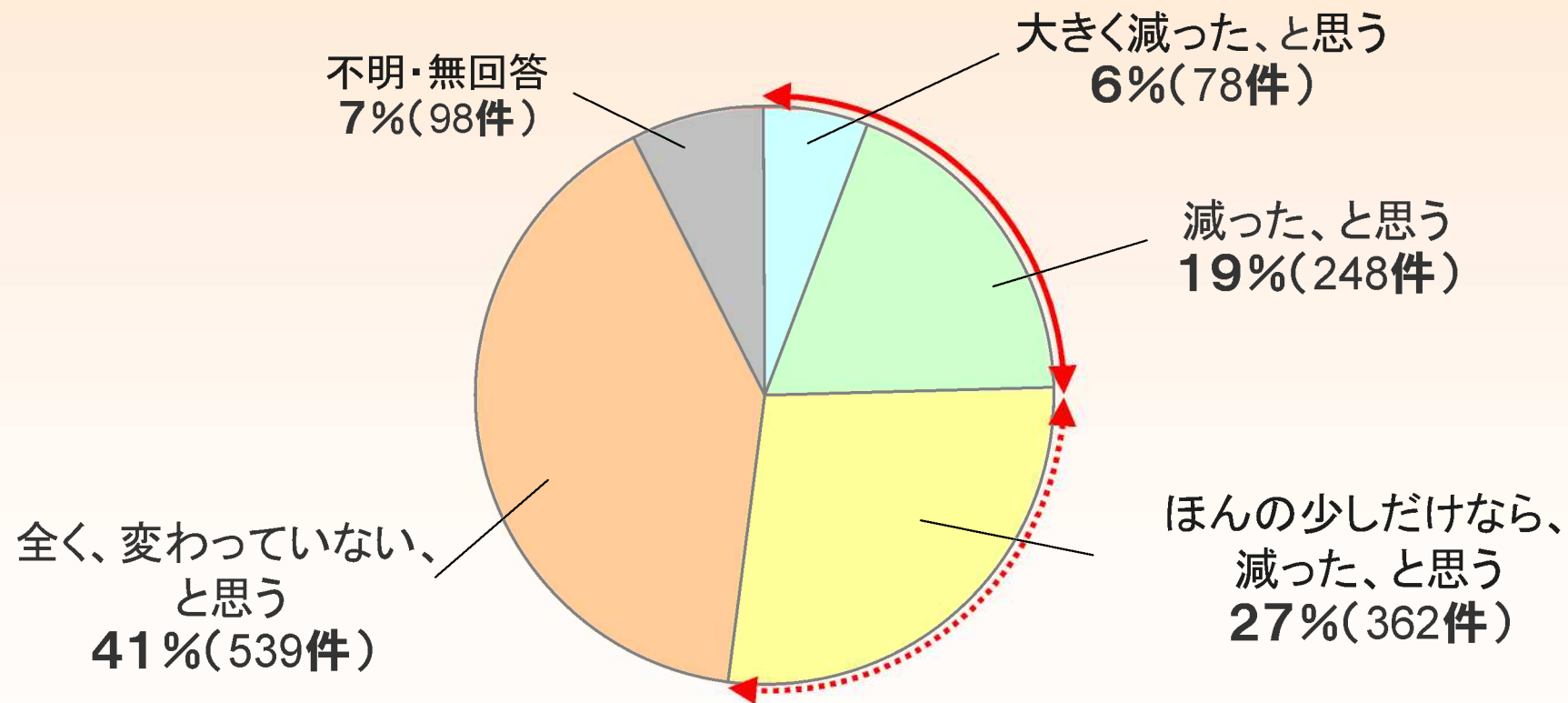
※百分比の合計は 端数処理 の関係で100%にならない

第1回調査協力者： 第1回アンケートを通じてクルマ利用と環境、健康等の情報に触れた市民

第2回新規発送者： 第1回アンケートに回答していない市民

アンケートがきっかけで、ご自身の「クルマ利用」が 少しでも減ったと思うか？（第1回調査協力者）

クルマ利用者の25%～52%がアンケートがきっかけで
少しでも「クルマ利用」が減ったと回答



有効回答数: 1,325件

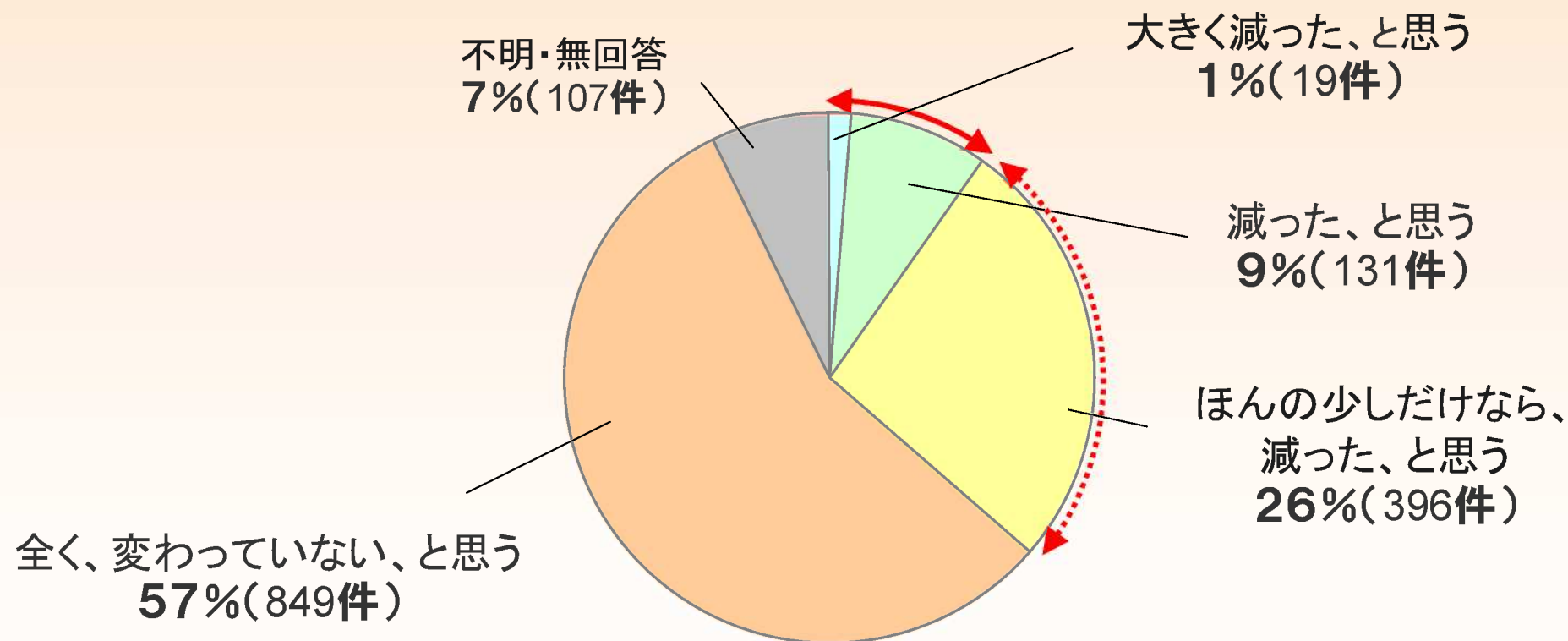
※「もともと、クルマを使っていない」の467件を除く

どのようにクルマ利用を減らしたか

- 近いところは歩き、少し遠いところには自転車で行くようになった。
- 「市バス一日乗車券」などを使うことで「クルマ利用」が減った。
- 毎日クルマで行ってた買い物を減らした。
- まちなかまで時間はかかるが、自転車で出してみると意外に気持ち良かった。走る道を選べば、走りやすい事も分かった。
- 駅まで自転車で行き、公共交通を利用する様にした。
- 市バスの時刻表を携帯に入れた事により、出かける際に段取りが組みやすくなった。
- 目的なくクルマで走らないようにしている。
- とにかく歩くことを妻と二人で実践している。
- 雨の日や荷物が多い日以外は歩くようになった。
- 外出時、主人に頼っていたが、自分の体の為にもウォーキングを兼ね、歩いて出かける。

アンケートについて話し合うことによって、ご家族や身近な人の「クルマ利用」が少しでも減ったと思うか？（第1回調査協力者）

10%～36%がアンケートについて話し合うことによって家族や身近な人の「クルマ利用」が少しでも減ったと回答



有効回答数: 1,502件

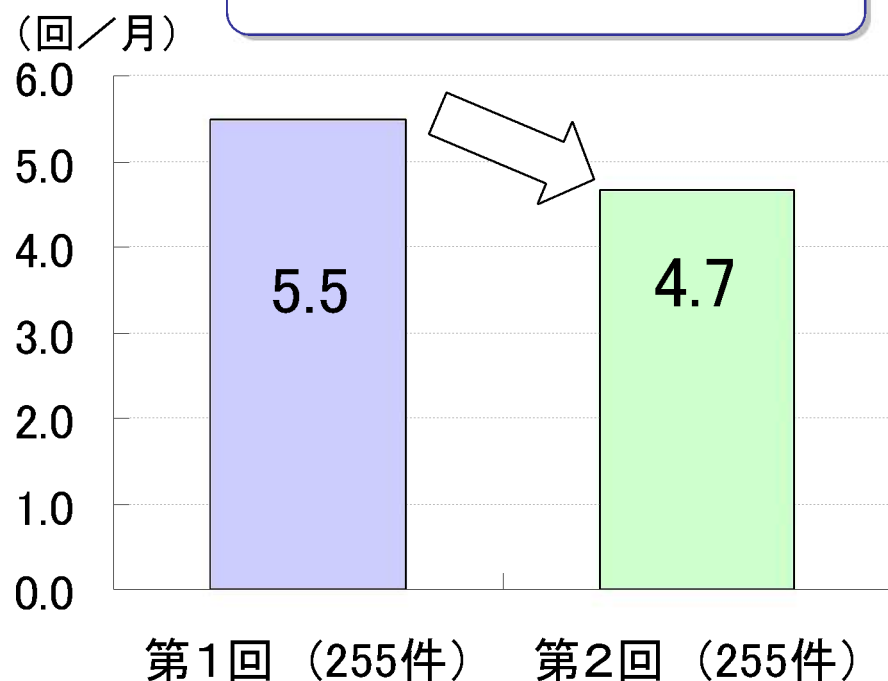
※「もともと、クルマを使っていない」の290件を除く

クルマの外出回数

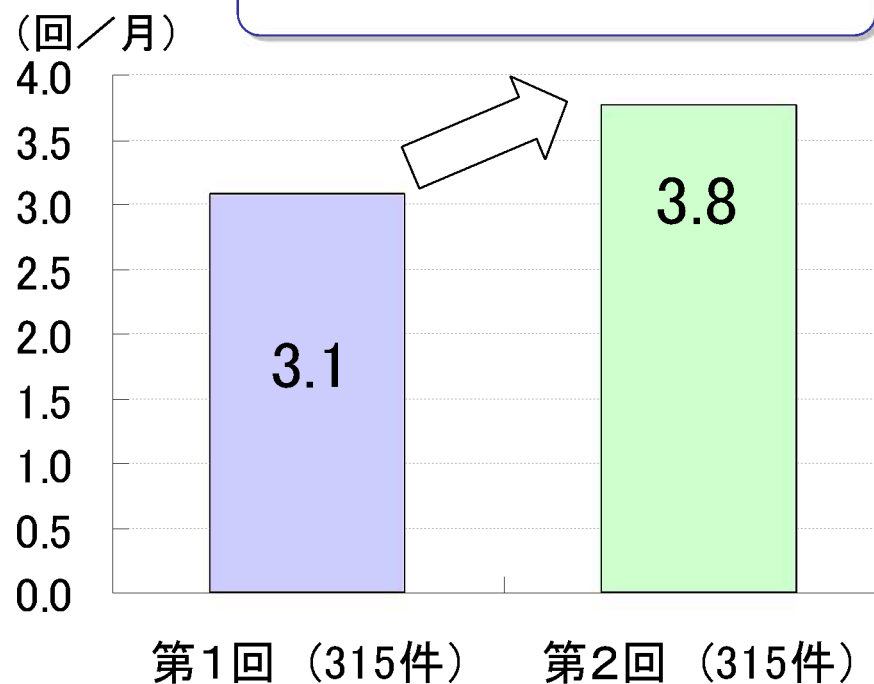
第1回アンケートで「クルマ利用を控えたい」と回答した市民は

- 平日の**クルマ**での外出回数が **約15%減少**
- 平日の**徒歩**での外出回数が **約22%増加**

平日の**クルマ**での外出回数



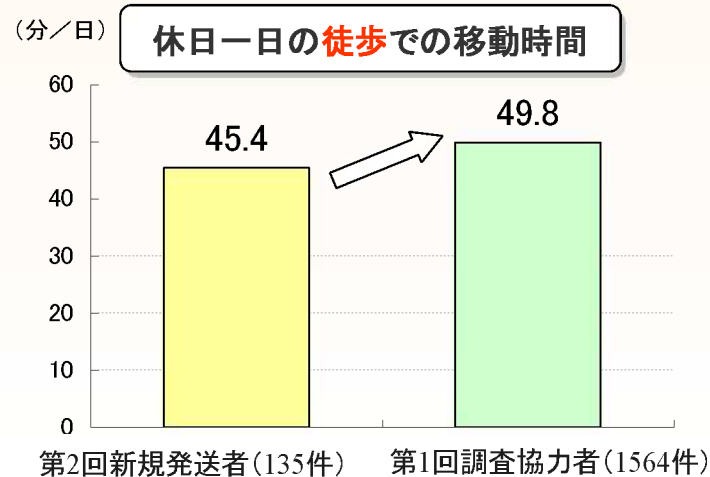
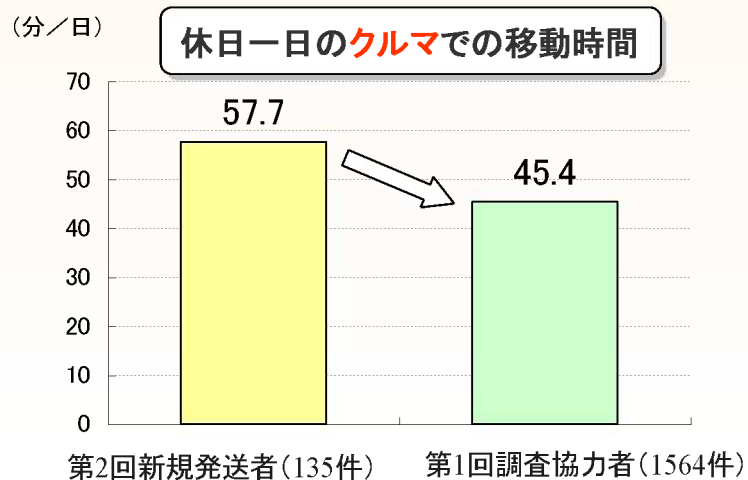
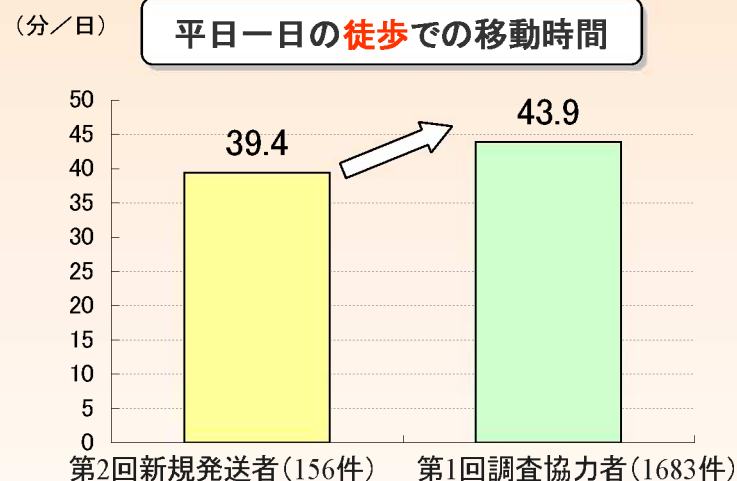
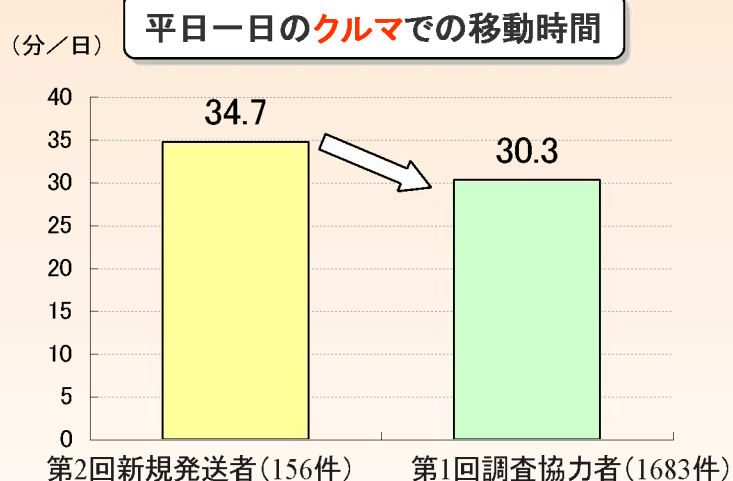
平日の**徒歩**での外出回数



一日のクルマ、徒歩での移動時間

アンケートを通じてコミュニケーションを図った市民は

- **クルマ** での移動時間が 平日**1割減少** 休日**2割減少**
- **徒歩** での移動時間が 平日**1割増加** 休日**1割増加**



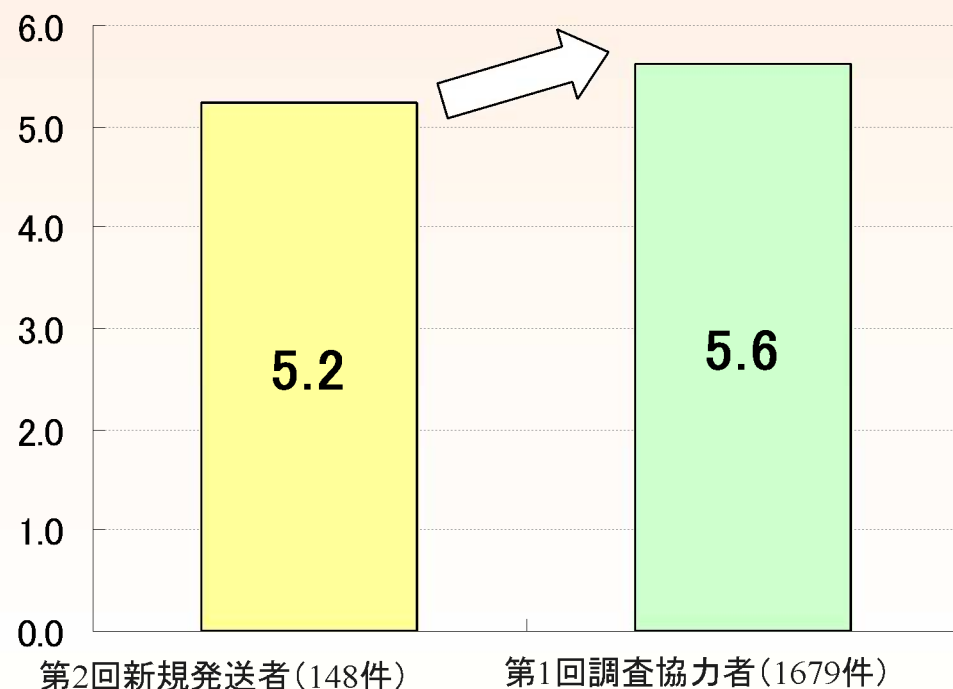
まちなかへの来訪回数と来訪手段

アンケートを通じてコミュニケーションを図った市民は

- まちなかへの来訪回数が約1割増加
- 手段別に見ると公共交通での来訪回数が約2割増加しクルマでの来訪回数が半減

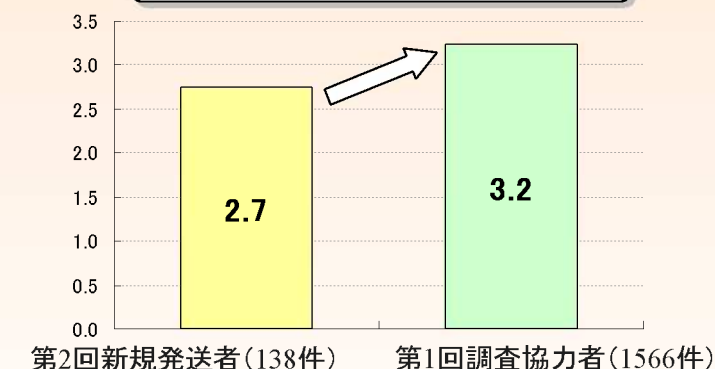
(回/月)

ここの月のまちなか来訪回数



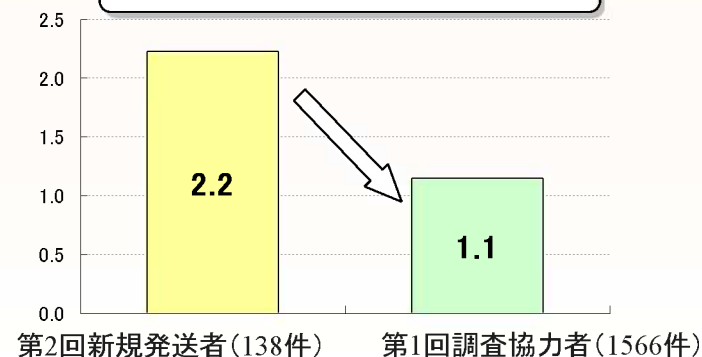
(回/月)

公共交通でのまちなか来訪回数



(回/月)

クルマでのまちなか来訪回数



第1回と第2回のアンケート結果から

「クルマを控えようという**意識の高い**」京都市民は、

第1回のアンケートをきっかけとして

「**実際の行動でもクルマ利用を控えた**」(25~52%)

さらに、アンケートについて話し合うことによって、

「**ご家族や身近な人のクルマ利用も減った**」(10~36%)

と推察される。

アンケート結果から示された市民の想い

- 京都の「賑わい」と「歴史・伝統」を継承するために、

何よりも**歩行者**を優先し

公共交通や**自転車**も活用し

クルマ利用を控える

まちづくりを目指すべき

